

旧上田藩上塩尻村 馬場家系図について

近畿大学経済学部

岩間剛城

はじめに

信濃国小県郡上塩尻村（上田藩領）

近世日本で有数の蚕種生産地

幕末期の開港直後（家系図が書かれた時期）には、蚕種輸出が拡大

宗門人別帳と佐藤八郎衛門家「諸家代次」（家系図）とを照合した上で、
村内の各同族（マケ）について、詳細な検討がなされている

（長谷部・高橋・山内編

『近世日本における市場経済化と共同性』刀水書房（2022））

佐藤八郎右衛門家「諸家代次」では、佐藤家のみに止まらず、
上塩尻村内の他家の家系図についても記載されているのが特徴

佐藤家以外の有力な同族では、馬場家（と清水家）の家系図
の情報が割に詳しい印象

馬場家

上塩尻村内で最有力な同族（マケ）であった佐藤家には及ばないが、清水家・山崎家・原家などと並び、馬場家は上塩尻村内で主要な同族（マケ）の一つであった

上塩尻村内で最有力の同族（マケ）であった佐藤家とは異なり、本家筋がはっきりしなくなっていく
馬場家については、本家筋を特定する事は困難

佐藤八郎右衛門家「諸家代次」では、上塩尻村で庄屋を務めた事もある馬場弥平次家が一応の本家と位置付けられて、馬場家の家系図が記されている

馬場家の同族（馬場マケ）については、「諸家代次」に記載された馬場家の家系図の情報を参照して、かつて報告者は検討を試みた
（長谷部・高橋・山内編（2022））

上塩尻村内の集落の一つである、本宿の開発（正徳年間、1710年代以降）に関わる者がいた
上塩尻村内の集落の一つである大村に「馬場小路」があった
「百姓」身分で蚕種商人になった者が複数いたが、金貸を行う者もいた

馬場家同族のうち、馬場弥平次家が一応の本家筋とされた馬場家系図が、佐藤八郎右衛門家「諸家代次」に記載された事情？

佐藤家は、佐藤家以外の他家の家系図の情報をどのように把握して「諸家代次」を作成していたのか？

本報告では、
馬場弥平次家文書の家系図「中興系図」と、
佐藤八郎右衛門家の家系図「諸家代次」とを
照合して、馬場家の家系図について、改めて考察を試みる

「中興系図」の記載内容についての検討

「中興系図」

馬場弥平次家文書（馬場四家文書）に含まれていた家系図内容・形式から見て、江戸後期～明治前期になってから馬場家の家系図を個人的にまとめたものと推測される

「他見無用」の袋が、合わせて残されている

馬場弥平次家としては、自らの出自を確認し、また縁組の参考にもするという事で、自らの同族や親族（婚姻関係なども）についてある程度の把握をしておく必要があると考えて、私的な覚書という格好で馬場家の家系図を作成していたと思われるしかし、「中興系図」の情報については、上塩尻村内外の他者に対して、広く公にする考えはなかった

中具系図

中具^{ヨリ}改

馬場建之衛門

惣系^改之
女子ス方村丑重^行
後四弟^{(以)喜子新井^改}
女子^{長修^行}

建之馬
九七番

作^之子^子子^改之^改

孫^之孫^之
女子^{五^改}

女子^之
女子^之

女子^之

信^之系^之
幼^之弟^之

「中興系図」からの抜粋（個人情報を含みますので、引用等についてはご容赦ください）
（数字については、佐藤八郎右衛門家「諸家代次」を元に作成された、高橋基泰氏による
各系統の番号付け）

馬場半右衛門――半右衛門――――弥兵衛――――九良（郎）兵衛――

（中興ヨリ改） | - 九右衛門（3） | - 弥惣（19） | - 九郎七（2）

| - 六兵衛（4） | - 庄三郎（相果早世）

| - 女子 | - 女子（諏訪方へ行）

（おめト云

諏訪方へ行）

――弥五左衛門――――浅右衛門――――弥平次――

| - 女子（秋和村へ行） | 女子（中島母袋氏へ行） | - 忠七コト弥五左衛門（8）

| - 伝内（子早世跡無シ） | 忠兵衛（7） | - 三男紺屋町金沢氏へ行 金沢源左衛門ト云

| - 伊右衛門（5） | 藤右衛門（9） | - 四男当村佐藤氏へ行 佐藤八郎右衛門ト云

| - 藤四郎（6） | 金兵衛（15）

| - 女子 | 外二女子五人有 早世果ル

（当村佐藤半弥妻ニ

ナル）

――――團治（妻は当村清水助五郎娘）――――門弥（先妻ハ分家源左衛門娘不縁トナル）――
| 女子（中之条村へ行）（妻ハ当村下之郷村曲尾氏さと）
| 篠吉（杭瀬下村市川氏ニ養子 | 女子（当村清水氏エ嫁ス）
ニ行キ早世 男子一人有）

――――藤松（後ニ弥平次ト改メ隠居シ信直ト云）――――
（妻ハ当国埴科郡松代紙屋町原要吉娘をい）
| 長女くに（当郡岡村村田氏へ嫁ス）

――――荒助（養子 実ハ当村清水助五郎三男 後九郎兵衛ト改メ分家ス
妻当郡東内村中村氏）
| 豊平（家督後弥平次ト改ム知明ト云フ
妻 先ハ当郡東内村山本三郎平娘よん 後ハ当郡塩川村堀内万蔵娘たけ）――
| 仙治（五才ニテ死ス）
| 又助（四才ニテ死ス）
| 藤松（別家ス）
| 信次（同）

―――長女 とみ 母ハ山本氏 同家へ養女ニ遣ス
| 二女 なみ子 母ハ堀内氏 早世ス

(参考：弥平次家 (1) の系統についての記載は、
「中興系図」では、ここまでで終了している)

九右衛門（3）の系統の記載

九右衛門 — — — — 勘之丞 — — — — 九兵衛 — — — — 伊兵衛
| 伊兵衛 | 女子 | 勘治郎
(子無ク跡無シ) | 女子

(参考：九右衛門（3）の系統の記載は、ここまでで終了している
佐藤家「諸家代次」では、後の代の弥五作まで記載あり)

弥惣（19）の系統の記載

弥惣―――惣兵衛（跡無シ）

｜女子（諏訪方五郎七へ行）

｜権四郎（此養子ニ新井両家ヨリ参リ相果跡無シ）

｜女子（長嶋へ行候）

（参考：弥惣（19）の系統の記載は、ここままで終了している

佐藤家「諸家代次」では、次の代の八之助・七三郎まで記載あり）

六兵衛（4）の系統の記載

六兵衛――六兵衛――

（参考：六兵衛（4）の系統の記載は、ここまでで終了している

佐藤家「諸家代次」では、後の代の六兵衛・六左衛門まで記載あり）

儀右衛門（2）の系統の記載

九郎七―――儀右衛門―――半五郎事儀右衛門―――
| 太右衛門（14）（後の代の記載あり、次のスライド）
| 彦四郎（戸倉へ行）
| 女子（亀ト云 諏訪方へ行）

――女子（当村清水文右衛門妻ニ入ル）
| 九郎七事儀平次――（以後の記載無）
| 圓松（鼠宿江行早世）
| 政五郎（11か）――（以後の記載無）

（参考：儀右衛門（2）の系統の記載は、ここまでで終了している
佐藤家「諸家代次」では、後の代の儀右衛門まで記載あり
政五郎は政之右衛門（11）の系統か 「中興系図」には後の代の記載なし）

太右衛門（14）の系統の記載

太右衛門―――伝右衛門―――広八（海野町へ行）
| 勝右衛門 | 利吉
（相果跡江当村山崎武右衛門 | 儀八
より養子ニ入伝右衛門也）

（参考：太右衛門（14）の系統の記載は、ここまでで終了している
佐藤家「諸家代次」では、後の代の太右衛門まで記載あり）

伊右衛門（5）の系統の記載

伊右衛門――女子

（当村馬場忠兵衛妻ニ入ル）

| 与惣兵衛

| 藤之丞（10か）――仲右衛門――

| | 定吉（板屋へ行）

| | 国次郎（上田木町江行）

| | 伊右衛門（当村新屋春原氏へ養子ニ行早世）

|

| 源左衛門（5）――女子（当村佐藤利右衛門妻ニ入ル）

| | 源左衛門――

| | 女子（相果ル）

| 女子（鈴子村へ行） | 仙太郎（17）（後に伊右衛門ト云）

（参考：藤四郎（5）の系統の記載は、ここまでで終了している

佐藤家「諸家代次」では、（5）については、後の代の源蔵まで記載あり）

藤四郎（6）の系統の記載

藤四郎 — — — — 藤四郎（13） — — — — 新平（子相果当村山崎氏ヨリ養子ニ入）
|
| 忠右衛門（6） — — — — 女子（当村後金兵衛妻ニ入ル）
| 儀八

（参考：藤四郎（6）（13）の系統の記載は、ここまでで終了している
佐藤家「諸家代次」では、（6）については、後の代の藤四郎まで記載あり）

忠兵衛（7）の系統の記載

忠兵衛	-----	市郎兵衛（16）	-----	女子			
		女子（当村佐藤文五郎妻ニ入ル）		（健右衛門事）市郎治			
		女子（当村馬場忠右衛門妻ニ入り果ル）		孫八（東上田へ行相果早世）			
				弥五平			
				女子			
		三郎治（7）	-----	（松太郎事）忠兵衛早世	-----	忠兵衛	
		女子（中村へ行）			女子		二男

（参考：忠兵衛（7）の系統の記載は、ここままで終了している

佐藤家「諸家代次」では、（7）については、後の代の忠兵衛忠太まで記載あり）

藤右衛門（9）の系統の記載

藤右衛門――女子（舞田村へ行）

｜仲右衛門（子早世跡へ金井村ヨリ養子ニ入ル 仲右衛門ト云）

｜女子（所々へ行不縁ニ而後ニ仲右衛門方ニ而相果ル）

（参考：藤右衛門（9）の系統の記載は、ここまでに終了している

佐藤家「諸家代次」では、（9）については、後の代の藤右衛門まで記載あり）

金兵衛（15）の系統の記載

金兵衛 — — — — — （佐五七事） 金兵衛
| 女子（坂下村へ行）

（参考：金兵衛（15）の系統の記載は、ここまでに終了している
佐藤家「諸家代次」では、（15）については、後の代の金兵衛万作まで記載あり）

弥五左衛門（8）の系統の記載

（忠七事） 弥五左衛門 — — — （後ノ忠七事） 弥五左衛門
| 二男当村清水氏へ行清水銀右衛門ト云
| 女子秋和へ行

（参考：弥五左衛門（8）の系統の記載は、ここままで終了している
佐藤家「諸家代次」では、（8）については、後の代の歳次まで記載あり）

馬場弥平次家「中興系図」の最初の世代の内容については、
佐藤八郎右衛門家「諸家代次」と一部ずれが見られる
戦国末期から江戸初期の古い世代までさかのぼって、正確に確定するのは
やはり難しかった、という事なのだろう
馬場家の本家筋が、あいまいになっていった事とも関わるものと思われる

弥五左衛門以降の代については、佐藤八郎右衛門家「諸家代次」の内容と、
かなり一致している印象

馬場弥平次家「中興系図」ではやはり馬場弥平次家が詳しく、
自分の家である馬場弥平次家を本家筋と位置付ける記載内容

馬場弥平次家以外の馬場他家についての記載内容は、
佐藤八郎右衛門家「諸家代次」での記載内容より詳しくない
馬場弥平次家「中興系図」では、馬場家の子孫を幕末・明治前期の時点まで
追わず、途中で記載を中断している場合が多い
「中興系図」では、馬場家同族の全ての系統について、完全に把握・記録
しようとはしていない

馬場家の本家筋はあいまいになっていったが、馬場弥平次家としては、
自分の家の本家筋として意識した上で、馬場家同族との関係について記録していた
馬場弥平次家から見て、まずは各家が分かれていった概況について
把握できていれば良い、という事ではなかったか

馬場弥平次家「中興系図」では縁組・養子の相手も、一部について記載されていた
縁組・養子にともなう親族関係を整理して記録
馬場弥平次家は、縁組・養子相手の家格についても意識していたか

馬場弥平次家

勝蔵が佐藤八郎右衛門家（佐藤家の中で有力な家、「諸家代次」が残される）に養子入りして、佐藤八郎右衛門信副として佐藤八郎右衛門家を継いでいた

（佐藤八郎右衛門家「諸家代次」・馬場弥平次家「中興系図」のいずれにも記載あり）

馬場弥平次家（1）は、佐藤八郎右衛門家との関わりが強かった

馬場弥平次家の家系図に関する情報が、佐藤八郎右衛門家に伝えられて、佐藤八郎右衛門家「諸家代次」に反映されて記載されたものと考えられる

佐藤八郎右衛門家「諸家代次」・馬場弥平次家「中興系図」にも記載されているように、
佐藤家と馬場家の間では、複数の縁組・養子関係があった

例：弥平次（1）

すいが佐藤半弥信方の妻

勝蔵が佐藤八郎右衛門家に養子入り 信福

伊右衛門・源左衛門（5）

源左衛門行暗の次妻は佐藤半弥娘

忠兵衛（7）

娘が佐藤文五郎の妻に

馬場弥平次家を本家とする以外の、馬場他家の状況については、
佐藤家は馬場家と縁組・養子関係があった事を背景にして、
情報を得ていた場合もあったと推測される

馬場家については、佐藤家と縁組・養子関係が複数あった事も、
佐藤八郎右衛門家「諸家代次」では

上塩尻村の村内の他家と比べると、馬場家が相対的に詳しく記載される事になった
要因の一つと考えられる

おわりに

佐藤八郎右衛門家の家系図「諸家代次」では、佐藤家以外の村内の他家のうち、馬場家についての記述は割に詳しい

馬場家については、上塩尻村内で最有力の同族であった佐藤家とは異なり、本家筋を特定するのは難しい

佐藤八郎右衛門家「諸家代次」では、上塩尻村の庄屋を務めた事があった馬場弥平次家を一応の本家筋にして、系図が記載されている

佐藤八郎右衛門家「諸家代次」と、馬場弥平次家「中興系図」とでは、古い世代については一部異なる場合があるものの、内容はかなり重なっている印象
馬場弥平次家を本家筋として「中興系図」は記載

ただし「中興系図」では、馬場同族の他家についての記載については中途になっている場合も少なくない 馬場弥平次家の関心によるものか

馬場弥平次家からの情報のある程度参照した上で、佐藤八郎右衛門家

(馬場弥平次家から勝蔵が養子入りして、佐藤八郎右衛門家の当主になった事例あり)は、「諸家代次」のうち、馬場家についての家系図を作成していた事が考えられる

馬場弥平次家以外の馬場他家については、佐藤八郎右衛門家は馬場他家からの情報も参照して「諸家代次」に記載をしていたと推測される→「諸家代次」は馬場家の情報を割に詳しく記載